

Invisible

見えない恐怖

警告！この先はマスター以外は読んではいけません！

シナリオについて

●シナリオプロット

「ヴァッサアミン南部の都市で、歌姫だけに感染する奇妙な病気が蔓延している」

ヴァッサアミンの防衛部隊に所属する新米傭兵であるPCたちは、この奇妙な病気を調査するために、ヴァッサアミンとファゴッツの国境にある町に向かいました。

「重要ではあるが戦闘とは無縁な任務だろう」誰もがそう考えていましたが、現世騎士団に襲撃され、捕らえられたことから大きく話は変わりはじめます。

拷問の後、処刑される予定だった彼らを救ったのは、同じ現世騎士団に所属している一人の女英雄でした。彼女はPCたちに、この街で現世騎士団がウィルス兵器の実験をしていること、さらにそれが成功した暁には大規模な攻勢に出ようとしていることを教えて脱出させます。

果たして彼女の目的とは？そしてPCたちは現世英雄たちの追手を振り切り、この危機をヴァッサアミンの本部に伝えることができるのでしょうか？

●シナリオの準備

今回のシナリオの時代設定はTL3aを想定しています。個人装備及び奏甲の装備もTL3aから選択することができますが、PCの奏甲はゲーム途中で破棄することになるので個人用の装備のみ購入を許可して下さい。また、(ツヴァイ)に掲載されている選択ルール「英雄能力」を使用しているので、PC作成時には英雄能力を一つだけ持たせることができます。

なお謎の奇病について扱うシナリオなので、キャラクターに一人は《現世医療技術》を取得させるか、技能を取得しているNPCをパーティーに参加させてください。

今回のオリジナル技能。現世世界での専門的な医療技術を身につけています。専門技術なので、救急や能力値による代用はできません。今回のシナリオで使用する移動用のマップは1マス10Kmと考えて計算してください。奏甲で移動した場合、1日で6～8マス分進むことができます。

シナリオ本編

1：シナリオの導入

シナリオはヴァッサアミン南部の農村地帯からスタートします。PCはヴァッサアミンの新米傭兵で、ヴァッサアミン南部で広がりはじめた謎の奇病を調査するためにやってきました。その病は今までアーカイアで見られたどの病にも属さず、現世から持ち込まれたものと考えられたため調査を依頼されたのです。また、その奇病が広まった地域では必ず奏甲のようなものが目撃されており、そのことも地域住民の不安をかきたてています。

もっとも、PCの所属する部隊の隊長ベルウィックは、今回の事件をさして重要と考えてはいません。せいぜい夜盗と化した英雄たちから現世の病気で移されたんじゃないのか程度の考えです。現在、他国との戦闘は激化の一途を辿っており、そんな事に割くだけの兵力が無いというのが本音なのでしょう。彼はPCたちに患者たちの実態を調べ、周辺地域のパトロールを1週間ほど行なったのち帰還するよう

に命令し、彼らを送り出します。

ベルウィック中隊

フランス出身の退役軍人、ピエール・ベルウィックが率いる中隊です。中隊の体裁こそとってはいるものの老朽機が多く、英雄や歌姫も経験不足の者が多いため、主に後方任務に就いています。隊長のベルウィックはベテラン軍人らしく、守勢に強い指揮官ですが、民事を軽視する傾向があり、今回の事件も重要視していません。

中隊は、現在ウルムの北方にある都市ポーチェに駐屯しています。

田園都市「ウルム」

今回のシナリオの舞台となる田園都市ウルムは、この地方の豊かな農作物を集積し中央部に運搬するための中継地点として古くから栄えてきた都市です。ここに集められた収穫物は、管理担当の歌姫たちの検査を受け中央に運ばれていました。しかし、現在は戦乱によって流通などの状況が激変し、その重要性は薄れてしまいます。

また、それに伴い奏甲整備のための施設なども廃棄され、補給や整備は望めません。

2：「ウルム」での行動

ウルムに到着したPCは、今回の事件に関する調査／解決のための行動を行うことができます。以下にウルムで行える行動の例と、その所要時間をあげておきますので参照してください。

PCが戸惑っているようであれば、まず今回の事件の調査を依頼してきた歌姫の長のところへ連れて行ってあげると良いでしょう。その後もPCが積極的に聞き込みを行わない場合は、酒場や市場などの存在を示唆し、そこで情報収集が行えるようにしてください。

・歌姫の長「ヘレネ」への聞き込み(1時間)

この街に住む歌姫たちの長です。彼女は自身が病気に感染しながらも他の歌姫たちの治療にあたっており、二次感染を恐れてかPCたちと直接会話をすることはありません。彼女との会話は全ては御簾越しで行われます。

彼女からは以下のような情報を得ることができます。

病気に感染するのは、どうも歌姫だけらしい。(看病に当たった歌姫が二次感染することはありませんが、歌姫でない普通のアーカイア人に感染したものはいません)
最初に病気に感染した歌姫は、町外れの農作物貯蔵庫を管理していた。(貯蔵庫は、全部で3箇所あります)
歌術はこの病にあまり効果がない。例えば「安らぎの歌」によって症状を緩和することはできても、「癒しの歌」によって完治させることはできない。

・街での聞き込み(3時間)

ウルムは中規模の街ですが、住民の疾病に対する知識は、現世の中世ヨーロッパのそれと大差ありません。また、街では謎の奏甲や病に対する不安が広がっています。そのため、病気の感染源と考えられている歌姫との接触を、街の人々は嫌います。必然的に情報収集は英雄のみで行うことになるでしょう。